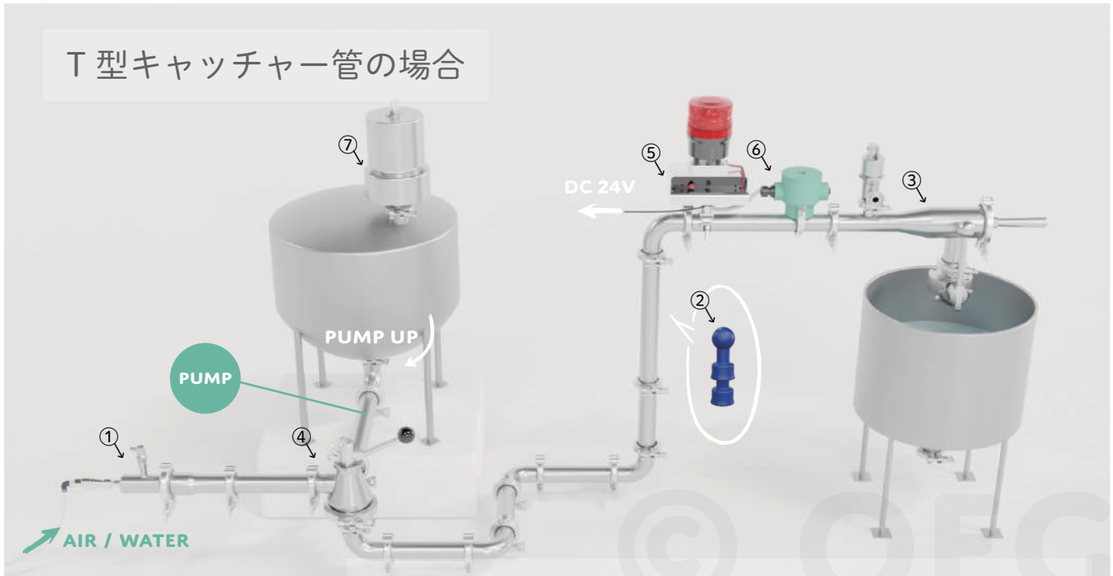
ワンウェイタイプ

ワンウェイタイプは、原料の移送量が少ない場合や、取り扱う原料の種類が限られている場合、
またラインが比較的短い場合に有効です。ただし、原料の特性によっては往復タイプが適している場合もあります。

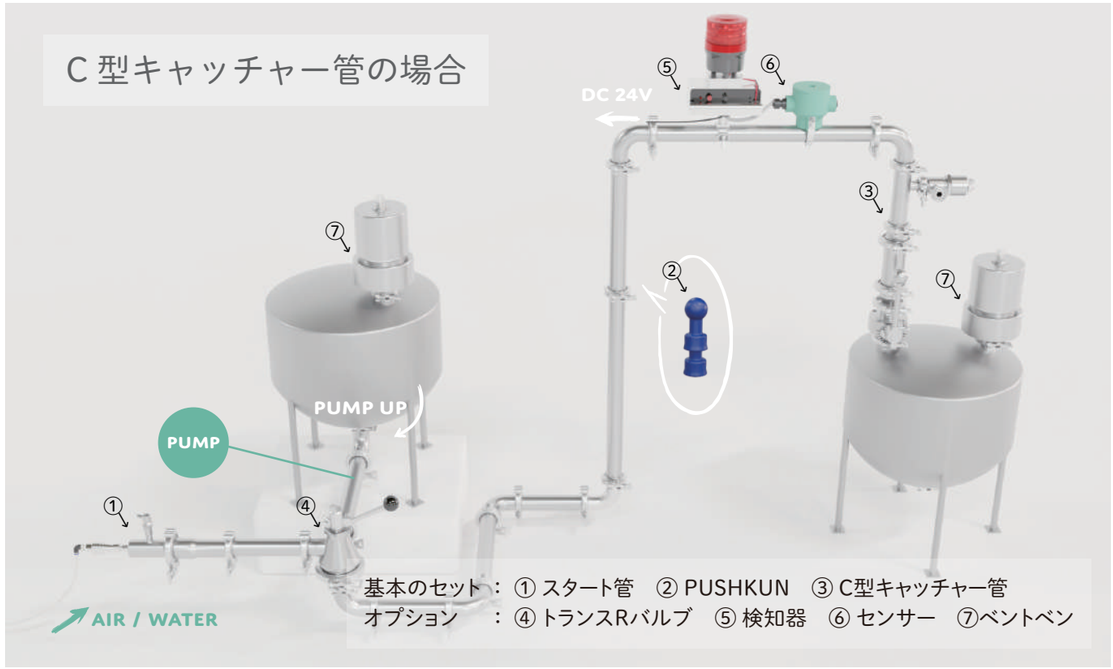
ご参考見取り図

T 型キャッチャー管の場合



基本のセット ： ① スタート管　② PUSHKUN　③ T型キャッチャー管
オプション　 ： ④ トランスRバルブ　⑤ 検知器　⑥ センサー　⑦ベントベン

C 型キャッチャー管の場合



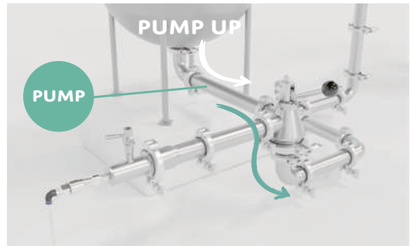
基本のセット ： ① スタート管　② PUSHKUN　③ C型キャッチャー管
オプション　 ： ④ トランスRバルブ　⑤ 検知器　⑥ センサー　⑦ベントベン

ワンウェイタイプ 運用手順

STEP1

原料の送液

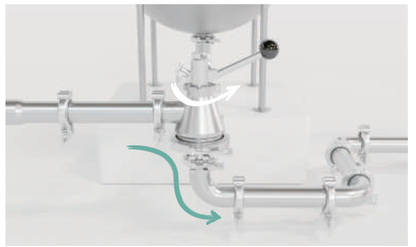
タンクから生産ラインへ、バルブ方向を確認して
原料を配管内にポンプで送り出します。



STEP2

バルブ方向の切り替え

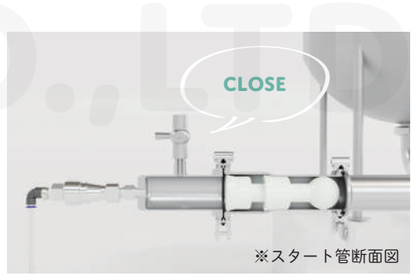
ポンプを止めて、スタート管が生産ラインに
繋がるようにバルブの方向を切り替えます。



STEP3

スタート管の準備

PUSHKUN を水で濡らしてスタート管に装填し、
クランプで固定。メートルコックと排気弁が
閉まっていることを確認して準備完了です。

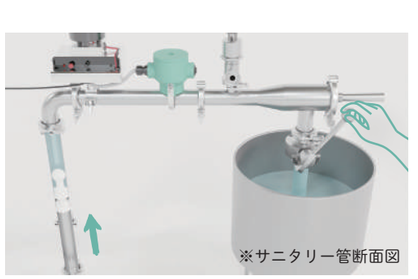


※スタート管断面図

STEP4

PUSHKUN を送り出す

エアカプラーからエアー圧を供給して
PUSHKUN を移送し、キャッチャー側の
バルブで移送速度と原料排出量を調整します。

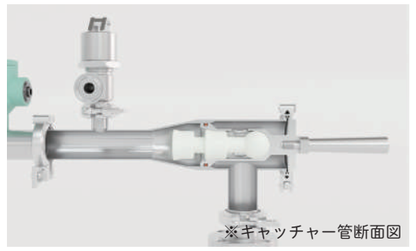


※サニタリー管断面図

STEP5

キャッチャー管で受け止め

PUSHKUN がキャッチャー管に到着すると、
バスケット内に回収されます。



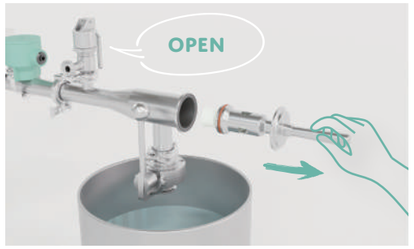
※キャッチャー管断面図

検知機能付きの PUSHKUN は、
センサーからの信号を受け取った検知器が
音と光で到着をお知らせします。

STEP6

エアー抜きと取り出し

エアー圧を停止後、排気弁かメートルコックで
配管内の残圧を排出します。
最後にキャッチャー管のクランプを外して、
PUSHKUN を取り出します。



※配管内のエアー圧が残った状態で PUSHKUN を
キャッチャー管から取り出すと、PUSHKUN や
原料が飛び出して思わぬ事故につながる場合があります。